第90号 いたる通信 いたる通信 第90号



2022年6月1日、杉並区阿佐谷南に開設した「いたるクリニック」 地域の皆様に在宅診療をお届けするため、梅澤謙一院長のもと、スタッフ一同邁進いたします

いたる

化社会を迎え、

現在の日本では例を引いたるクリニックとは 

このため医療にな地域還に 療サ ック」の関サービスのご利用者 クビ 開設を開設を開設を にとなる。

たるク

んは社会福祉法-

管疾患(脳 学医学部) 脳、山

医療連携を強化 さんが思っていた医療とは大きく違う。しかし今の訪問診療は今まで皆 社会福祉法人い 令 和4 たるセンタ 年 6 月

の全

主身状態の

管理に従事

しており

0

治療に携わ

り

の各事業を同一拠点活支援部門」「陸寮提供談部門」「医療提供

相談部門

る地域や

生活の場に

病院を退職

した後は、

各地の

療の

り年

域画

画作成まで

相談か

トプロセスから

必要なサ

動しており、一ばスの内で、一ばスの内で、一ばスの内で、一ばスの内で、一ばスの内で、一ばスの内で、一ばスの内で、一ば、大きの内で、一ば、大きの内で、一ば、大きの内で、一ば、大きの内で、一ば、大きの内で、一ば、大きの内では、一ば、大きの内では、一ば、大きの内では、一は、大きの内では、一は、大きの内では、一は、大きの内では、一は、大きの内では、一は、大きの内では、一は、大きの内では、大きの内では、一は、大きの内では、一は、大きの内では、たらの内では、たらののでは、たらののでは、たらののでは、たらののでは、たらので

です。また関ランピリー・
離するハブのような働きをすること
離するハブのような働きをすること
事者とが連携を取るために連結し中 して理学療法士・作業療法・他にも患者様の身体的な時活に関する指示や指導を出 看護師や施設職員 6、患者様やご家族様と他の医療訪問診療における医師の役割 また薬局へ薬の処方箋を出 6クリニック4ーションの指言 けることが な障害に 、の療養や

寄り添う医療を提供 療養支援診療所として 公益事業として事業を開始 して、24時間 ご家族様に と開始し、在 心寄与す

持つようになっておりました。最適なのではないか、という思いをえることができるのは、在宅医療がだく為に、何ができるかをともに考 - の訪問診療クローの訪問診療クローの訪問診療クローの この 度い

T A  $\subset$ 0 m Z m

## 目次

#### contents

01 在宅診療を地域に。 医療連携を強化。 令和4年6月、 「いたるクリニック」 開設しました。 サポートウイズ マネジャー 塚田充昭

在宅診療を地域に。

たるクリー

ッ

Ź

事業部からの情報発信・

事業所通信 \* あけぼの作業

\* パン工房プクプク

\* サポートウイズ \*イタール成城

\* SDGs推進室 \* ピヨピヨおうちえん \* 包括ケアセンター・ グループホーム

\* 目黒本町福祉工房 \* すまいる高井戸

\* 阿佐谷福祉工房 \* クローバー・マルコ

\* 法人本部 春の叙勲受章

すまいる高井戸・春山センター長、 令和4年度第2回職員研修 あさきたシルクロード お困りごと相談会

います。 の活動を支援して. いたる賛助会」では 

何口で

事務局

山本まで

いただける方を募集して 会のご案内

# 社会福祉法人いたるセンターから、初の叙勲者! すまいる高井戸・春山陽子センター長が瑞宝単光章を受章

令和4年度「春の叙勲」において、杉並区障害者 地域相談支援センター高井戸(すまいる高井戸)の 春山陽子センター長が「瑞宝単光章」を受章しまし た。春山さんは、昭和58年から一貫して障害者相 談支援に従事し、東京都府中市、武蔵野市、杉並区 において、障害者の地域生活が安全かつ安心して 送れるよう尽力してきました。平成20年からは「い たる相談室」室長として、地域の障害者が障害福 祉サービスを実際に利用するにあたり、本人や家 族の状態を判断し、その人に合うサービス計画の 作成に従事。この相談支援の豊富な経験が、後に センター長を務めることになる「杉並区障害者地 域相談支援センター高井戸」で発揮され、地域福

祉に包括的かつ多大な貢献を果たしてきました。 さらに、杉並区地域自立支援協議会委員、小平市 障害支援区分判定等審査会委員を歴任し、障害者 の地域における自立支援を推進するとともに、障 害者に対する差別解消や虐待防止に注力するな どの功績が認められ、この度の受章となりました。

#### ずいほうたんこうしょう -瑞宝単光章-

日本の勲章の一つで、瑞宝章6つのなかで6番目に位置す る。2002年(平成14)8月の閣議決定「栄典制度の改革に ついて」により、それまでの勲六等瑞宝章から名称が変更 された。翌2003年5月の閣議決定「勲章の授与基準」によ れば、公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを 評価し、職務をはたし成績をあげた人に対して、瑞宝単光 章以上を授与するとなっている。受章者には消防団長、民生・ 児童委員、看護師長などが多い。伝達は所管大臣が行うが 総務省および厚生労働省関係は都道府県知事が行う。



賞状を掲げる春山センター長 右上の勲章も合わせて授与されました

# 令和4年度第2回職員研修、 8月27日に開催。

# 国立重度知的障害者総合施設・のぞみの園の古川慎治氏をお招きし、 『高齢知的障害者への支援』について学びました。

令和4年8月27日(土)、令和4年度第2回職員研修を開催し ました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今回も ZOOMによるリモート研修となりましたが、170名を超え る常勤職員が参加。メイン講義の『高齢知的障害者への支 援について』では、古川講師の障害者入所施設での豊富な

支援経験から得た多くの 知見を共有していただき ました。特に、日常的に丁 寧な客観的記録を残して おくこと、年齢に配慮し た適切な健康診断を実施 すること、心身の機能低 下の予防と老いに対する 準備を整えること、本人

の意思決定を支えるための「ライフストーリーワーク(記 憶の支援)」を理解し実践することなどがポイントとして 挙げられました。各事業部の職員からは、それぞれのサー ビスにかかわる質疑応答も進められ、充実した専門性の高 い研修となりました。

高齢知的障害者への 支援について

独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 総務企両局 事業企画部 古川慎治

支援のギアチェンジ うまで生活訓練を中心としていた障害福祉サービス

個々の楽しみや生きがいを重視し、生活のあり方全体を少しずつ、 無理のないプログラムに変更していく必要がある 活環境もそれに合わせて変えていく必要がある 全体像を把握する必要性(ICFの視点が大切)

本人の意思決定を支える (失っていく意思表出) ベースラインを基にした体験や経験で判断

## いたるセンター・サポートウイズ事業部は、高齢者介護の「居宅介護支援」 や障害者支援の「移動支援|「相談支援|、医療関連の「訪問診療|「訪問看護| などのサービスを提供し、地域の包括的な支援を行っています。

こうした公益的な事業活動に加え、杉並区阿佐谷北地区では、高齢者のため の「なんでも相談会」に参画し、スマートフォンの使用方法や健康相談、介 護のことなどにお答えしています。

この相談会は、あさきたシルクロード実行委員会が主催し、ケア24阿佐谷、 阿佐谷北2丁目町会、阿佐谷スターロード商店会、阿佐谷北民生児童委員、 阿佐谷北あんしん協力員、久遠キリスト教会が協力・連携し、運営しています。 さまざまな地域資源が協力しながら、そこに暮らす高齢者を支えていく活動 の輪が、少しずつ広がってきました。この9月には第3回の相談会を開催、今 後も継続して参加していきます。



らも考慮

# いたる広報委員

#### 発行責任者=谷山 勝崇

社会福祉法人いたるセンター T167-0032 東京都杉並区天沼1-15-18

TEL: 03-3392-7346 FAX: 03-3391-8039 Eメール: info@itarucenter.com HP: http://www.itarucenter.com/

発行日/2022年9月15日 で意見・ご感想がござい ましたら、上記のFAX、 Eメール等でお声をお寄

いたる広報委員まで。

ITARU CENTER



# 事業部からの情報発信・事業所通信



## センター長 春山陽子

杉並区地域自立支援協議会計画部会では、今年 |10月~||月に令和4年障害者の地域生活に関する調査 を実施する予定で、内容を話し合っています。第7期 障害福祉計画(令和6~8年度)及び第3期障害児福祉 計画(令和6~8年度)に向けて、障害のある方の生 活やサービスの利用意向等を把握するためです。方法 は、アンケート形式で、関係団体や事業所、無作為に 抽出された方に郵送されます。アンケート記入にサ ポートが必要な方は、すまいるまで連絡をいただけれ ばご支援いたします。

#### ピョピョおうちえん (保育事業)

マネジャー 大上 茂樹

例年になく暑い日の続く夏でしたが、保育園では子ども達の元気な声が響いて いました。散歩に出られない日も多かったのですが、室内遊具での遊びや、水遊び を行って夏を楽しみました。

コロナ禍はまだまだ厳しい状況ですが、感染防止を徹底しながら職場体験やボ ランティアの受け入れを始めています。小学生から高校生までのお兄さんやお姉さ んと触れ合うことは、新鮮な刺激になっていることと思います。

来年の入園希望者の見学も多くなっています。予約により一組ず つ園長から説明をさせて頂きますが、どなたも真剣な眼差しで、園 長の説明にも熱が入っていきます。

来年どんなお子さんが入園されるのか楽しみなこの頃です。



#### 阿佐谷福祉工房

施設長 齋藤 直人

植物油回収用トラックが新しくなりました。

阿佐谷福祉工房の就労継続支援B型事業部で植物性油の回収作業に 使用していたトラックが、この度清水基金様からの補助を受け、新車 に入れ替えることができました。このトラックは、毎日杉並区内の小 中学校や保育園の給食室で使用した植物油を回収するために使用して います。回収している油はBDF(バイオディーゼル燃料)の原料と

なりディーゼル車等の燃料としてリ サイクルされています。今まで使用 していたトラックは十年以上の間、 ご利用者様と作業を共にしてきまし た。新しいトラックもご利用者様と 長いお付き合いになる事でしょう。 これからも事故なく安全に走っても らえたらと思っています。



リサイクルに貢献する廃油回収作業

## 包括ケアセンター・グループホーム事業部 ゼネラルマネジャー 白瀧 則男

グループホーム事業部に8月1日より新しくマネジャーとし て水谷泰三さんが入職されました。水谷さんは大学の福祉系学 部を卒業後、障害福祉畑を長年歩んでこられ、社会福祉士・介 護福祉士・精神保健福祉士の三つの国家資格を取得し、介護支 援専門員の資格もお持ちです。8月9月の2か月間は各ホームを 廻り、夕方勤務を行いながら職員や入居者と対話して現在の問 題点を探り改善に努めています。また、週1回は夜間勤務を行 いグループホームの勤務状況などを把握してもらいながら、よ り良いグループホーム事業部づくりのために頑張って勉強して います。

今後とも応援よろしくお願いします。

# クローバー・マルコ

施設長代理 仙石 宏樹

クローバーではベテランの女性職員が8月より産休に入り職員が3名 となりました。開設して以来初の職員体制であります。開所できる日に ちが現行よりもさらに減ることが予測され、利用していただいている皆 様には当分の間ご迷惑をおかけすることになります。現在、隣接事業所 の職員の協力、およびパートスタッフの募集を行って開所日確保に努め ております。このような職員体制も来年度の初頭までと考えております が、その間なるべくご利用者様の使いたいというご要望にお応えできる よう柔軟に対応してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 法人本部

事務局長 中島學

法人本部では、今年度事業方針の主軸である「人材の採用・育成・ 定着に向けた取組の強化」を図ってきました。人員計画に基づく適切 かつタイムリーな採用とオンボーディングの実施、入退職時のフォ ローアップも充実させています。また、職員の専門性を向上させる各 種研修体系を強化し、現場で役に立つ実践的な知識の習得や、虐待防 止・権利擁護の意識の向上を図ってきました。さらに、公認心理師に よる職員カウンセリングを実行中で、メンタルヘルス対策にも注力す るなど、職員が働きやすい環境整備に努めてまいります。

## 目黒本町福祉工房

施設長 高木 知子

4月にあけぼの作業所より目黒本町福祉工房に異動になり、 早半年が過ぎようとしています。

生活介護30名、就労継続B型40名、分室7名、計77名のご利 用者様で令和4年度はスタートしました。

5月に1名の新卒職員の入職、6月にのぞみ寮より1名異動、3名の 中途入職者を迎え常勤・非常勤合わせて、52名で運営しております。

未だコロナ禍でありますが、自粛が緩和されつつあります。 三密に注意してのレクリエーションを以前の規模に戻すことは 難しいと思いますが、縮小しながら行っております。

7月に盆踊り、9月の本町まつりは、ご利用者様と午後からご 家族を迎え小規模で行いました。まつりの週の1週間は、玄関前 で屋上で収穫した野菜を販売しました。

12月に宿泊研修の代替で、昨年と同様に品川プリンスホテル で宴会場を貸し切り、ランチ会を予定しております。





実りの秋、目黒産の野菜を収穫販売

#### サポートウイズ

マネジャー 塚田 充昭

穏やかに秋が深まる今秋、皆様におかれましては、ますますご活 躍のことと拝察しております。

この度、サポートウイズは総合相談支援センターとして医療と介 護、相談支援の有機的連携を軸にしたアウトリーチ業務の拡充のため、 本年7月10日に世田谷区成城において、いたる訪問看護ステーション のサテライト事業所の届出をいたしました。

いたるクリニックも診療範囲として世田谷区を含んでいますので、 より一層の医療サービスの充実が可能になると考えております。

今後もサポートウイズは、地域課題の解決に資する べく、在住・在勤・サービス事業者の連携を密にする ような事業展開を思案していきます。

今後ともご愛顧のほど何卒宜しくお願いいたします。

#### イタール成城

施設長 五木田 義之

本号では海外技能実習生を紹介します。今は技能実習生(※発展途 上国への国際貢献が目的で研修生)ですが、今後は法人方針により特 定技能(※労働力充足を目的とした一労働者)に立場が変わります。益々 のご活躍を願い、次号にかけて書面の関係上各2名をご紹介します。

interview ①出身地 ②お国自慢 ③日本の良いところ ④将来の夢



#### コアさん | イタール成城 (通所) 配属

①ベトナム:ハイズオン市 ②バイン・ダウ・サイン (※緑豆菓子) ③静かで安全、公園がたくさんある ④ベトナムで理学療法士の資格を持っているのでリハ ビリ専門施設を創りたい



#### スーザンさん | バンブル配属

①フィリピン:ブトゥアン市 ②果実(ランソネス※外見 は黄色いぶどう、中身は甘いグレープフルーツ)③世界一 安全、子供の頃から知っていたから働くことを決めた ④日本に住み続けたい

\*次号はハイさん(ベトナム出身)、レシルさん(フィリピン出身)をご紹介します。

## SDGs推進室

統括リーダー 渡邊 菜都

当事業部は、顧客企業の三井不動産リアルティ株式会社様へ訪問 し、障害のある社員(以下メンバー)へサポートを行っております。

三井不動産リアルティ株式会社様では、近隣に配属された新卒の 社員を対象に障害者雇用について学ぶ研修を荻窪事務所で実施。メ ンバーさんから新卒の社員さんへ、普段行っている封筒の押印、両 面テープ貼り、レシートの仕分け、入力業務のレクチャーを行いま した。

業務で気を付けるポイント、1日どのくらい業務出来るかなどお話 しされ、普段の仕事の成果を発表できるとても良い機会となりました。 新卒の社員さんからは、「集中力のいる大変な仕事」「根気と責任 感を持って仕事している事が伝わった」など様々な感想をいただき ました。

#### あけぼの作業所

施設長 池田 佳津男

あけぼの作業所では杉並区が推進する農福連携事業に今年 4月より参画させて頂き、毎週月曜日と木曜日に「すぎのこ農 園」にてご利用者様に「農作業」をして頂いています。

ご利用者様は「すぎのこ農園」に行くことをとても楽しみ にしており、農園では活き活きとした表情で作業に取り組んで 頂いています。農園の職員の方々はとても親切に接して頂ける だけでなく、ご利用者様のことも良く理解して頂き、和気あい あいとした雰囲気で楽しく作業をさせて頂いています。

農園の職員の方からは、参加している事業所の中で、あけ ぼの作業所の参加率(出席率)が一番高いと伺っています。

今迄にたくさんの枝豆やジャガイモ等々を収穫させて頂き ました。これからは大根やカブ等の冬野菜の栽培を行う予定 です。



秋冬に向けて大根やカブを栽培



ご利用者様による畑作り

## パンエ房プクプク

本年度の事業部目標にて菓子製造を重点的に活動すること を掲げ4月より半年が経ちました。現在ではその中のフィナン シェをパン製造の合間にご利用者様自ら計量・仕込・一部焼成・ 包装と工程をすべて任せています。

原料はよつ葉バター・青森産育み卵等、パン製造と同じよ

うに素材にこだわりながら丁寧な作 業を心掛け製造しております。種類 はプレーン・紅茶・チョコチップ・ キャラメルの4種類で今後も新製品 を増やしていく予定です。

現在、高井戸区民センターと阿 佐ヶ谷区民センターにも納品してお り評判は上々です。





